（お知らせ）

京都議定書誕生の地・京都で
協働による東アジアの環境保全を
みんなで考えよう！

平成 26 年 9 月 18 日
環　境　政　策　局
担当：地球温暖化対策室
電話：075-222-4555

2014 年イクレイ東アジア地域理事会関連事業「京都国際環境シンポジウム ～パートナーシップによる東アジアの持続可能な低炭素都市づくり～」の参加者募集について

京都市では，国連の公式協議機関であり，地球環境分野の国際自治体連合組織である「イクレイ－持続可能性をめざす自治体協議会」※1に平成 8 年から加盟し，世界の自治体と連携した環境政策を推進しています。

本年 11 月 6 日にイクレイ東アジア地域理事会※2を京都で開催することに合わせ，同地域理事会の関連事業として，日本，中国及び韓国等，東アジアの自治体関係者，研究者が一堂に会する「パートナーシップによる東アジアの持続可能な低炭素都市づくり」をテーマとした「京都国際環境シンポジウム」を本年 11 月 5 日に開催することを本年 7 月 4 日，8 月 19 日に発表しましたが，この度，参加者を下記のとおり募集しますので，お知らせします。

記

1　定員

オープニング・基調講演及び全体セッション　先着 1,000 名
各分科会　先着約 200～400 名

2　申込方法

市役所案内所，各区役所・支所等で 9 月 19 日（金）から配布の別添の申込チラシを参照のうえ，代表者の氏名，郵便番号，住所，電話番号，FAX 番号，参加希望プログラム（オープニング・基調講演，分科会（「産業・技術」「市民生活・くらし」「教育」「都市づくり」の４つのうち，いずれか１つ），全体セッション）及び参加希望人数を記入し，往復はがき，ファックスで，又は専用ホームページからお申し込みください。

※ただし，申込チラシ又は専用ホームページから，複数人の参加でお申込みの場合は，同一の参加希望プログラムに限ります。

3　申込・問合せ先

「京都国際環境シンポジウム」参加受付事務局(株式会社 J プロデュース内)
〒541-0056
大阪市中央区久太郎町 2-1-25　JTB ビル 6F
TEL：06-4964-8871　　FAX：06-4964-8809　　専用ホームページ：https://kyoto-ies.jp

４　申込期限

平成 26 年 10 月 28 日（火）必着

＜参考１＞

※1 イクレイ－持続可能性をめざす自治体協議会

イクレイ（ICLEI）とは，International Council for Local Environmental Initiative の略称。持続可能な開発に積極的に取り組む自治体及び自治体連合で構成された国際的な連合組織。国連の公式協議機関として，気候変動枠組条約締約国会議（COP）等国際会議の場で自治体の主張を各国政府に伝えている。本部はドイツ・ボンで，東アジア地域事務局はソウル市，日本事務所（イクレイ日本）は東京都にある。現在，世界 86 カ国・1,000 以上の自治体が加盟しており，うち，**東アジアでは，79 自治体(日本 17，韓国 47，中国 1，台湾 12，モンゴル 2)**が加盟。

※2 イクレイ東アジア地域理事会

○　イクレイの諮問会議または当該地域の代表として機能し，地域単位での活動を活性化するために世界全体を 8 地域にわけ，各地域で選出された地域理事で構成される「地域理事会」が平成 23 年に新設された。

○　日本，韓国，中国，台湾，モンゴルで構成される東アジア地域からは 5 名の理事を選出（日本・韓国・台湾・中国から各 1 名選出，東アジア全体から選出される理事 1 名の計 5 名)。任期は 3 年。

○　平成 24 年 5 月，門川京都市長が日本を代表する理事として同理事会議長に就任。

【イクレイ東アジア地域理事会 構成】

議　　長	門川 大作 京都市長
副 議 長	チョン・ヒョスン　韓国・ソウル市副市長
理事	ヨム・テヨン　韓国・水原市市長
理事	潘 家華（パン・ジャファ）中国社会科学院都市環境発展研究所所長
理事	劉 世芳（リウ・シィファン）台湾・高雄市副市長

＜参考２＞　発表済み内容

１　開催趣旨

平成 25 年 9 月に韓国・水原（スウォン）市で開催されたイクレイ東アジア地域理事会において，中国をはじめとする東アジア地域における温室効果ガスの排出量の削減や PM2.5 等の大気・土壌・水質汚染等の対応が地域の喫緊の課題であるという認識が共有されました。

また，昨年 9 月に気候変動に関する政府間パネル（IPCC）の「第 5 次評価報告書 第 1 作業部会報告書」において，人間活動が 20 世紀半ば以降に観測された温暖化の主な要因であった可能性が極めて高いと公表しており，世界人口の約 2 割を占め，地球全体の温室効果ガス排出量の約 3 分の 1 を排出している東アジアにおいては，地域が主体となって環境政策の連携を図ることが，特に重要となっています。

こうしたことから，イクレイ東アジア地域理事会の京都市での開催に合わせ，「京都国際環境シンポジウム」を開催し，東アジアをはじめとする自治体間の環境分野における国際協力を一

層推進します。

２　日　　時

平成 26 年 11 月 5 日（水）　午前 10 時～午後 5 時

３　場　　所

国立京都国際会館（京都市左京区宝ヶ池）

４　主 催 等

主　　催　京都市

共　　催　イクレイ－持続可能性をめざす自治体協議会（東アジア事務局，日本事務所），
京都府，大学共同利用機関法人人間文化研究機構総合地球環境学研究所，
公益財団法人京都高度技術研究所，特定非営利活動法人気候ネットワーク，
公益財団法人京都市環境保全活動推進協会（順不同）

５　内　　容

（１）全体テーマ

「パートナーシップによる東アジアの持続可能な低炭素都市づくり」

（２）基調講演（2 名）

ア　江守　正多（えもり　せいた）氏※3

（国立環境研究所地球環境研究センター気候変動リスク評価研究室長）

講演テーマ：「地球温暖化のリスクと人類の選択～ＩＰＣＣの最新報告から～」

イ　周　瑋生（しゅう　いせい）氏 ※4

（立命館大学政策科学部教授，一般社団法人国際３Ｅ研究院院長）

講演テーマ：「『東アジア低炭素共同体』構想とその具現化」

（３）分科会

「産業・技術」，「市民生活・くらし」，「教育」，「都市づくり」の４つの政策分野の分科会において，日本，中国，韓国，モンゴルの自治体，大学・研究機関及び環境団体関係者等が「持続可能な低炭素都市づくり」に向けて推進する先進的な施策について情報共有するとともに，今後の展開等について議論を深めます。　**※　構成等詳細は別紙参照**

（４）全体セッション（総括）

各分科会で議論された内容等について報告，議論し，その結果をもとに東アジアにおける環境保全に関する「宣言文」を作成し，発表します。　**※　構成等詳細は別紙参照**

６　参 加 者

東アジアの自治体関係者，研究者，市民，環境団体，企業等　1,000 名

7　参 加 費

無料

※3　江守 正多 氏　略歴

昭和 45 年，神奈川県生まれ。東京大学大学院総合文化研究科博士課程修了（学術博士)。平成 9 年から国立環境研究所に勤務，平成 18 年，地球環境研究センター温暖化リスク評価研究室長，平成 23 年から現職。

地球温暖化の将来予測とリスク論を専門とし，平成 25 年度中央環境審議会地球環境部会気候変動影響評価等小委員会専門委員等を歴任。気候変動に関する政府間パネル（IPCC）第 5 次評価報告書第 1 作業部会（自然科学的根拠）主執筆者。

※4　周　瑋生 氏　略歴

昭和 35 年，中国浙江（せっこう）省生まれ。平成 7 年，京都大学大学院工学研究科博士課程修了（工学博士)。同年，新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）産業技術研究員，平成 10 年，地球環境産業技術研究機構（RITE）主任研究員，平成 11 年，立命館大学法学部助教授を経て平成 14 年から現職。

「東アジア低炭素共同体」構想を提案し，それを実現するためのシナリオ構築と社会経済システムのイノベーションに関する研究を行っている。

著書（共著）に「地球を救うシナリオ―CO_2削減戦略」，「都市・農村連携と低炭素社会のエコデザイン」，「サステナビリティ学入門」等。